

6月23日（火）

おはようございます。

今日は仏教の話をしてします。清風曼荼羅というのが、南校舎の一階にかかっています。清風曼荼羅は五つの色でできています。大日如来が真ん中に入っていて、その下側が青になっています。普通の地図であれば北が上ですが、曼荼羅は上が西です。ですから下は東ということになります。その東のところにあるのが青い円です。この青い円は仏様の智慧を示します。智慧の仏さまをなんと言うかということ、大円鏡智と云うのです。大きな円の鏡の智慧。

大円鏡智とはどのようなものかということ、昔高野山大学の堀内寛仁先生に聞いたことがあります。大円鏡智というのは、芥川龍之介の『蜘蛛の糸』という小説と関係があります。あの話は、ろくなこともしなかった悪人が、あるとき一回だけ蜘蛛を助けたことがあった。お釈迦様はそれを見られており、その悪人に一回だけチャンスを与えるのです。地獄へおちるような悪いことばかりしてその結果地獄へ落ちた。その悪人に一回だけチャンスを与えて、蜘蛛の糸をその地獄へ垂らすのです。悪人は、ああこの地獄で助かったと思って、どんどんどんどん蜘蛛の糸をのぼって極楽へ行こうとする。しかし、ふっと下を見たら、その糸に仰山の同じように地獄へ落ちた人々がそのつかまっていた。悪人はそれを見て、こんなに仰山の人がこの糸につかまったら、糸が切れるのでないかと心配になって、糸をゆすって皆を落とそうとした。そうしたら糸が切れて自分も地獄へ落ちてしまった。それでお釈迦さんは、「ああ、あかんかったなあ」とさびしい顔をされた。それでお釈迦さんは去られたという話です。

この話のどこが大円鏡智なのだろう。堀内先生は、大円鏡智とは何かということ、もしその悪人が下を見ずにずっとただこの糸を、今登るっているところだけを見て集中していたらきっと極楽へ行けたのであって、これが大円鏡地だとおっしゃった。要するに、今に集中するということ、これが大円鏡智なのです。今に集中するということは、皆もそんなことはあたり前じゃないかと言うかもしれませんが、けっこうこれはあたり前じゃなくて難しいことなのです。なぜか。たとえば、授業のときには、ゲームのことを考えてみたりする。家に帰って着替えているときには、友達のことを考えてみたりする。また、友達と話しをしているときは、また別のことを考えて、家へ帰ったら家へ帰ったで、学校でのことを考えたりして、今宿題しなくてはいけないときには、また別のことを考えてみたりする。だいたい人は、大事な今のそこにはいないものなのです。「今そこにおる」ということがとても大切なことなのです。そういう意味で、今ここにいるということは、簡単なことではない。

お釈迦様のお悟りのひとつ、大円鏡智とはまさにそれ、つまり、今を生きるということなのです。では、具体的にそれを実践している代表的な人は誰

かという、それは大リーガーのイチローです。今大リーグで活躍しているイチローは、まもなく 3000 本安打に達します。それを目前に控えて、今どういことを目標にしていますかと聞かれて、3000 本安打を目標にしていますと答えてよさそうなものなのに彼はそう言わない。目標は次のヒットを一本打つことと答える。彼はほんとうにそう思っているのです。3000 本安打はもうすぐだけれども、それを達成するためには、今日の前で 1 本ヒットを打たなければ絶対に 3000 本には到達しないからです。だからイチローは今も、今に集中しているのです。やがて間違いなく 3000 本安打を達成するだろう。達成するだろうが、その高い目標は、今しっかりやっていることの延長線上にしかないと、分かっているのです。だからイチローは、あなたの目標はなんですか、3000 本安打もうちょっとですねと、何回聞かれても、次のヒットを 1 本打つことと答えるのです。

次のヒットを打たなかったら決して 3000 本安打にならない。今に集中して 1 本 1 本打ち続けることがそれにつながる。今を生きるということはそういうことです。大円鏡智ということはそういうことなのです。

与えられた今のことを集中してそれに頑張っていかなかったら、どんな高い目標も達することはできない。こういうことをしっかり分かることをお釈迦様は、お悟りの境地についての大円鏡智と言われました。なかなか含蓄の深い言葉ですね。

諸君たちに、これは参考になることだろう思い今日はお話をしましたが、今に集中すること、与えられた今の環境のなかで集中してやっていくこと、それこそが君たちの未来につながっていくことです。ひとつイチローの精神に学んで、今与えられていることに集中して頑張ってもらいたい。そうして高い目標に迫って行って欲しいと思います。今朝の話はこれで終わります。

(学校長)